

平成 30 年度事前評価 中部森林管理局事業評価技術検討会

- 1 日 時：平成 31 年 2 月 15 日（金） 13 時 25 分～15 時 00 分
- 2 場 所：中部森林管理局 局長応接室
- 3 出席者：事業評価技術検討会 小野裕委員、佐古吉照委員、田中隆文委員
中部森林管理局 森林整備部長、計画保全部長
森林整備課長、森林整備課課長補佐
技術指導官、造林係長
経常監査官、監査係長
- 4 内 容：事務局及び説明員から、今回の事業評価の対象である事前評価（1 地区）の事業の概要・目的及び費用対策効果分析等の評価項目について説明を行い、「事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当と判断される。」とされた。主な質問とそれに対する回答は以下のとおり。

（1）森林環境保全整備事業「千曲川上流森林計画区」

（委員）事業費はどのように算出したのか。

（局）税抜きの総事業費 59 億 1865 万円に消費税を加えた税込み総事業費が 63 億 9214 万円である。税抜きの総事業費 59 億 1865 万円という金額は、全局統一のプログラムに、事業期間である 2019 年度から 2023 年度までの 5 年間に行う森林整備と路網整備の事業量と、各局各流域の直近の経費実績とを入力し算出した。

（委員）最近、林業関係者のみならず各分野で労賃が高騰しているが、影響は出ているのか。

（局）労賃が上がると事業費が増加し、総費用（C）も増加するので、B／Cの数字に影響が出ている。

（委員）国有林の多くが国立公園や国定公園に指定されているが、環境保全便益の保健休養便益は計上しなくてよいのか。

(局) 本事業では、水源かん養便益が大きいことから保健休養便益は計上しなかった。

(委員) 下刈について、全刈と比べて、筋刈ではコストは半分程度に縮減できるのか。

(局) 半分までとはいかないが、刈払い面積が減ることからコスト縮減につながっている。また、毎年実施していた下刈を隔年で実施するなどしてコスト縮減を図っている。

(委員) チェックリストの3 (3) ③被害地等の早期復旧について、森林災害には説明にあったニホンジカによる食害も含まれるのか。

(局) ニホンジカによる食害は含めていない。台風による倒木被害があったことをもって、森林災害が発生したことがあるとした。

(委員) 今後この計画区のカラマツをどのようにしていくのか。

(局) 本地域はカラマツの適地であることから、更新に当たっては基本的にはカラマツを植えていく。従前は画一的にカラマツの一斉林を目指していたが、今は現地の状況に応じて、伐採時に有用広葉樹を残すなどにより、針広混交林にすることも考えている。